浜中町立茶内小学校「学校だより」

THE　茶内小　TIMES

令和４年（2022年）11月７日発行　VOL 32

教頭職の魅力とは何か？

浜中町立茶内小学校長　冨　田　直　樹

Ｑ　最近、教頭職を目指す教職員が減少しています。この要因は何だと考えますか。また、校長として、どのような解決方策をもってこの課題に対応しますか。

各種の教育関係の月刊誌等に目を通していると、８月ぐらいから上記のような内容を扱った記事が多く見られるようになります。これは、校長採用面接における質問事項の一部です。日本全国で９月から11月にかけて校長採用の試験が実施されます。各都道府県によって試験の方法は違いますが、北海道では例年、９月の上旬に「論文」が、10月の下旬から11月の上旬にかけて「面接」が実施され、「論文」、「面接」の結果を総合的に判断して校長採用者が決められます。

さて、皆さんは、上記の質問にどのように答えるでしょうか。受検した教頭の皆さんに、どのように回答したのか聞いてみると、要因としては「教頭職の多忙化が解消されないこと」と「教頭職の魅力が伝わっていないこと」の２つについて回答しましたとの声が多く聞かれます。しかし、「校長として、どのような解決方策をもってこの課題に対応するか」については、特に、「教頭職の魅力をどのように伝えるか」の方策についての回答に苦慮しましたという声を多く聞きます。ある教頭先生に、どうして苦慮したのか、その理由を聞いてみると、「そもそも自分自身が教頭職の魅力について理解できてませんでした」との回答が返ってきました。この回答を聞いたとき、最初は驚きましたが、これはとても重たい言葉であると感じました。なぜなら、多くの教頭の皆さんは、教頭職の魅力や醍醐味を実感できないまま、過重労働でストレスフルな日々を送っている、そんな姿が垣間見えたからです。

教頭職のやりがいや魅力、醍醐味とは何でしょうか。これまでに出会った多くの教頭の皆さんの中から、３人の教頭先生の言葉を紹介します。

自分に集まった情報を戦略的に活用し学校を動かす

教頭は校内の誰よりもたくさんの情報をもっているので、それらを活用すればどのようにでも学校を動かすことができます。学校を俯瞰的に見て、子どもや教職員はもとより、保護者、地域住民、教育委員会職員などから得た情報を活用して、学校経営方針で示されたことを実現するために、自分の色付けをして采配していくことは、教頭職の特権であり、楽しみでもあります。

大人との関係構築を楽しむ

教職員や保護者、地域住民はもとより、教育委員会など教育行政の人たちと付き合えることは、確実に人としての幅を広げます。

周囲を巻き込みながら成果を出す

教頭は学校に関わる人たちを俯瞰的に観ることができます。そして、最適解を考え、周囲を巻き込みながら成果を出します。人と人をつなげることが教頭職の魅力です。

数年前に弟子屈町で全道教頭会研究大会が開催され、ある助言者の校長が教頭職の魅力について「校長を手のひらに乗せて回すことですよ」と教えてくれました。その学校では教頭が生き生きとして働いているのだと思います。そんな学校を増やしたいものです。